二〇二二年四月一九日（参加者九名+欠席投句一名）

道をしへ会ひたき人に会へしごと　明日香
山つつじ樹間樹間を彩りて　明日香
奥池へ幾重の緑さしにけり　明日香
新緑の木洩れ日浴びて瀬をわたる　明日香
茶室への細道つづるえびね蘭　明日香
蹲の花屑仄と彩とどむ　明日香
岩を咬み己が影咬む糸蜻蛉　明日香
若楓重なり谷の空覆ふ　わかば
囀を心に満たし山路ゆく　わかば
藍深き湖へ五彩の緑さす　わかば
瀬の石を咬んではなさぬ糸蜻蛉　わかば
石楠花にやはらかき風生まれけり　わかば
川風が捩れをほどく鯉幟　小袖
緑青の庇へ翳す若楓　小袖
春日透く汀へ稚魚の寄りきたる　小袖
花園に蝶々ひらり又ひらり　小袖
行厨は桜しべ敷く樹の下で　せいじ
花虻のホバリングして道塞ぐ　せいじ
花虻をいなしつつ園巡りけり　せいじ
道をしへ鏡池へと招きけり　もとこ
薫風に誘はれゆく山路かな　もとこ
そよ風が運ぶ鳥語や竹の秋　もとこ
若楓そのうす緑目にぞ沁む　千鶴
山路ゆく囀遠くまた近く　千鶴
桜しべ踏みて吟行また愉し　千鶴
行厨は大緑陰の傘の中　ぽんこ
暦年の残念石へ緑さす　ぽんこ
那智黒の径をつづるは花あしび　ぽんこ
斑猫に出会ひてうれしつき行きぬ　あひる
うららかや小さき靴下げベビーカー　あひる

定例句会みのる選

二〇二二年四月一九日（参加者九名+欠席投句一名）